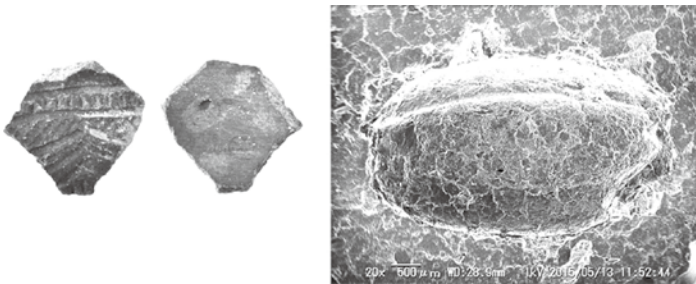


弥生人の峠越え

横野台地に位置する二軒在家原田頭はらたがしと遺跡は弥生時代中期中ごろの集落遺跡です。県内でもこの時期の集落が見つかることは非常に珍しく、東日本の弥生時代研究で注目される発見となりました。この時期は長野県を中心とする「栗林文化」が周辺地域に絶大な影響を与えます。具体的にはイネ・アワ・キビを主とした農耕、青銅器およびそれを模倣した石器、環濠集落かんとくなどがあり、これらが波及して群馬県の弥生文化は大きく変化しました。

当遺跡からは青銅器や環濠は発見されませんでした。イネ・アワ・キビの痕あとがついた土器が発見され、農耕を行っていたと考えられます。また、出土した土器は長野県の「栗林式土器」に加えて北陸地方の「小松式土器」が多く、外来の土器が目立ちます。この

ことから、中部地方の集団が移動してきたと推測できます。現代人と同じように弥生人も碓氷峠を越えて横野台地にやってきたのでしょうか。



イネの痕がついた土器(左、中央)、イネの拡大写真(右)  
土器裏面(中央)に見える穴がイネの痕



令和元年度  
「文化財愛護ポスター」  
優秀賞(敬称略)  
大野 愛理  
(松井田南中学校2年)

ふるさと学習館オリジナル缶バッジ販売中



1個 100円

こうめちゃんやお蚕のかわいいオリジナル缶バッジを販売しています。たくさんの種類がありますので、ご購入希望の方は受付へお声掛けください。



New information

常設展示 一部入れ替えました！

問合せ▶安中市学習の森 ふるさと学習館  
安中市上間仁田951 (☎382-7622) mail : furusato@city.annaka.lg.jp